

経営情報学会 2017 年春季全国研究発表大会

大会実行委員会：岸 真理子・福多裕志・長岡 健・宇野 斉 法政大学
大内紀知 青山学院大学
高木俊雄 昭和女子大学
石塚一彌 東京富士大学

2017 年春季全国研究発表大会は、3 月 9 日・10 日の両日、法政大学市ヶ谷キャンパスにおいて、「経営のデザインとプランニング」を大会テーマとして開催されました。

大会は、同キャンパスの 3 校舎を使い、1 日目はボアソナータワーと外濠校舎において、学生ポスターセッション、開会式、基調講演、表彰式、研究発表会が行われ、2 日目は、新校舎の富士見ゲートも使って、特別講演と研究発表会が行われました。晴天にも恵まれ、会員・非会員合わせて、延べ 200 名の参加者が集う盛会となりました。

1. 学生ポスターセッション

大会初日は、午前中に 4 つのセッションに分かれて学生ポスター報告が行われ、報告者と来場者間で、熱心で活発な質疑応答がなされました。その後の審査の結果、学生優秀発表賞には、五島圭一氏グループの「リカレントニューラルネットワークによるボラティリティ変動モデリング」と、佐藤愛斗氏・大藺亮亮氏グループの「研究開発能力が知識の外部ネットワーク形成に与える影響」が選ばれました。

2. 基調講演と表彰式

大会初日の午後の開会式では、高木晴夫大会委員長、木嶋恭一経営情報学会会長のご挨拶に続き、基調講演として、公益社団法人企業情報化協会会長・日本電信電話株式会社顧問（元副社長）の宇治則孝氏が、「ICT が拓く未来—変革の時代の ICT 利活用と働き方改革—」というテーマでご講演下さいました。

職場における働き方の変革の流れのなかで、時



表彰式



宇治則孝氏の基調講演

間・場所に制約された働き方から解放された柔軟な働き方が可能になったことから、多様な人材を多様に活用する、働き方そのものの多様化を活かすためには、経営者層を中心とする意識改革が必要不可欠であることが、豊富なデータや事例を踏まえながら示されました。

基調講演に続いて、学生ポスターセッション優秀発表賞と AIS 関連国際発表奨励賞の表彰式が行われました。

3. 特別講演

2日目午後には、香港大学文学部日本研究学科の中野嘉子氏より、「戦後『日本』のブランディング アメリカのまなざし、JALのこだわり」と題して特別講演が行われました。

1954年の国際線就航に伴い、きめ細やかな和のおもてなしを広告宣伝の前面に押し出して、「空のオリエンタリズム」に基づく経営戦略を推し進めてきた日本航空が、このような経営戦略をどのような方針のもとで構築し実行していったのかについて、歴史的・文化的影響を考慮した豊富な事例を示しながら、大変興味深い視点からご説明いただきました。

4. 一般報告

2日間を通じて、下記の各セッションにわかれ、報告者と参加者間で活発な質疑応答がなされ、開催テーマにふさわしい議論の場が得られました。

1日目：EC/eビジネス、人材・能力開発、経営戦略(1)、ナレッジマネジメント、東海支部「地方中小企業の知識経営革新」、研究部会「イノベーションと組織のダイナミズム研究部会」、研究部会「社会連携型PBL研究部会」、チュートリアルセッション

2日目：モデル・モデリング、政府・自治体、研究開発・ビジネスモデル、データマイニング、コミュニケーション、情報システムと事業開発、情報化社会、経営戦略(2)、多主体連携による価値創造、特設研究部会「人とITとの共創」、研究部会「官の情報システム部会」

5. 懇親会

懇親会は、法政大学ボアソナータワー最上階からの景色を楽しみながら開催されました。平野前会長による来年開催予定のPACIS2018についてのご紹介と、次回大会の開催校である岩手県立大学の後



中野嘉子氏の特別講演



懇親会の風景

藤裕介氏から岩手の宣伝も兼ねたご紹介がありました。次回大会のテーマは「ひと、情報、技術で創造する地域の未来」という楽しみなものになっています。

懇親会の終盤では、プロの演奏集団である「湘南エールアンサンブル」からヴァイオリンとチェロによる弦楽二重奏が披露され、NHK大河ドラマで話題となった「真田丸のテーマ曲」や情熱的な「パッサカリア」といった曲により、懇親会の場を大いに盛り上げてくれました。

2017年春季全国研究発表大会を盛況のうちに終了することができたのは、木嶋学会長、高木大会委員長はもとより、プログラム委員会の方々、スタッフ一同、学会理事、発表会の座長はじめすべての関係者のご尽力の賜物と感謝申し上げます。